

まずは知ってほしい 私たちの活動とEM菌がもたらす効果 多久のゴミを減らそう会



■ 7月10日、東多久公民館で作業にいそしんだみなさん。この日も市内外から賛同者や見学者が多く見えていました。
この活動やEMボカシ、廃油石けんなどについては、東多久公民館に問い合わせてください。

『多久のゴミを減らそう会』のみなさんは、EM菌を活用した生ゴミの減量・資源化や廃油リサイクルによる河川浄化運動をされています。佐賀県環境サポーターとしても活躍される伏原洋子さんをリーダーに、東多久町在住の31人が会員。家庭から出るゴミが及ぼす諸問題を身近に感じて自主的に始めた活動は7年目になりました。

毎月欠かさないのが第2金曜日に東多久公民館で行うEMボカシと廃油石けんづくり。このEMボカシと生ゴミを混ぜてできる発酵堆肥を家庭菜園や花づくりに利用されており、「無農薬・無化学肥料の元気でおいしい作物ができる」や「ひと手間いるので最初は面倒だと思うけれど、作業のしやすいやわらかい畑になるし、野菜がフルーツのように甘くて驚きでした」などと、パワーを実感済のみなさんは口々にされ、この感動が、地元小学生との『子ども農園』活動の実現にもつながりました。「店頭で手に入りにくくなった上に高価」ということで、一昨年には市民からの要望で、EMボカシを市内2か所で委託販売もされています。

EMセラミックスパウダーやキトサンを使い、熟成期間の調整にも研究を重ね、より高品質となった廃油石けんは、食器や衣類はもちろん、家庭のあらゆる所で大活躍する優れもの。水路のぬめりや悪臭も無くなるらしく、「ヘドロですごかった合併浄化槽の貯水槽がこの石けんを使うようになって消えていたのでびっくり」と驚きの体験を話される伏原さんは、「日常生活に使うだけで効果があるので、ぜひおすすめしたい」と加えられます。また、「燃やすゴミや環境のことを考え、私たちの活動を知って、1人でも多くの方に使っていただき、EM菌がもたらすこの幸せ感を味わってほしい。グループなどの指導にも出向きます」と、啓発活動も意欲的。活動の輪が広がりを見せる中で、意識の高いメンバーの目標の先には、まだまだ夢がありそうです。

6年程前から発明に取り組まれている栗原眞一郎さん（東多久町）は、『スバイルバッグ』や『エコ風呂敷バッグ』を考案し、全国の発明家がアイデア品を寄せるコンテストで連続入賞されています。

発明を志す人達が集う佐賀発明研究会『楽しき工房』のメンバーで、「子どもの頃から美術や工作が好きで、毎日の生活の中でこんなものがあればいいな」と思い始めた頃、この工房が多久市内にあることを新聞で知り、参加するようになりました。以来、よき仲間とよき学びの場です」と。2年程かけて試行錯誤を繰り返し、試作品までもっていくそうですが、最近の思いつきは、時代を反映してか省エネやエコロジー関連ばかりで、冬に役立つ省エネ商品も開発中だとか。

栗原さんは今、『ゼロの視点』に興味をお持ちで、「新しく何かをつくり出そうと思ったら、その前に今、所有している何かを先に責任をもって手放していくということで、この発想を使えば、経済の高度成長も可能では？」と言われます。それは、「つまり、ほんとうに素人の発想ですが、ビルや橋、電気製品など『人工物』をつくり出したら、それに見合った分だけ、必ず『人工物』を取り除き、森林などの自然を積極的につくり出していくのです。そうすれば、『人工物』の高度成長と高度マイナス成長が組み合わさり、収支はゼロになります。また、今まで高度マイナス成長一辺倒だった『自然界』も高度プラス成長に転じることができ、それぞれのヒトの雇用が生まれ、全体で経済成長できるはずですが、どうでしょうか？」と問い掛けられます。

そして、「私の発明も、環境問題や不景気対策につながり、地場産業の発展や地域活性化のひとつにでもなって、役立てば嬉しい」と話され、新しいモノづくりにチャレンジを楽しまれています。

発明が地場産業の発展や 地域活性化に役立てば嬉しい 栗原眞一郎さん



■ 栗原さんがお持ちの多変化するバッグは昨年、社団法人『発明学会』主催のエコバック・アイデアコンテストで優秀賞を受賞された『エコ風呂敷バッグ』。インターネットで、特許公報の意匠登録／第1361505・第1361506『ふろしき状バッグ』をご覧ください。

多久市役所では、地球温暖化防止のための国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参加しています。くわしくはチーム・マイナス6%のウェブサイト <http://www.team-6.jp/index.html> にアクセスしてください。みなさんもお参加ください。

■ 問い合わせ くらし部 経営統括室 ☎75-2113